

バガヴァーン・ニッテャーナダのムールティの移転 歴史と物語

スワームィ・ヴァースデーヴァーナダとクシャマー・フェラー

2018年9月20日

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム

多くのシッダ・ヨーギはご存知かもしれませんが、2004年、SYDA ファウンデーションの理事たちは、シッダ・ヨーガの道を世界中のサンガムと新しい探究者たちにとってより近づきやすいものにするための方針を定めました。これは、何千人もの探究者や訪問者を日々迎え入れてきた大きなイベント会場としてシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムを運営する代わりに、SYDA ファウンデーションの方策は、人々がどこに住もうとも教えと学びのイベントに参加できるようにすることに焦点を置くというものでした。

この世界において、どんな時でもこれほどの決定がなされるには移行期間があります。この方針の決定でも、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムと世界中のシッダ・ヨーギたちの双方にとって移行期間がありました。シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムを定期的に訪れ、セーヴァーを含むあらゆるシッダ・ヨーガの修行をしていた人たちは、どのようにシッダ・ヨーガのサーダナーとのつながりを保つのかを考え直さなければなりませんでした。多くの人たちは、サーダナーを活性化させる手段としてシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムを訪問することに頼っていたのです。ですからこの方針が導入されると、多くのさまざまな反応が起こりました。

この方針はシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの扉を閉ざすことを意味してはいませんでしたが、人々の中には、間違った理解があるようでした。彼らは、この方針は必然的にそういう結果をもたらすと思いました。しかしそうではありません。この機会に、アーシュラムは決して閉じられていないし、閉ざされたこともないと強調したいと思います。むしろ、この方針に

よって、SYDA ファウンデーションのリーダーたちは、人々がシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムでセーヴァーをささげる興味と能力を表すことができるシステムを作りました。人々はこの方法で、SYDA ファウンデーションの核となる目的 —— シッダ・ヨーガの教えを保護し、保存し、普及を促進すること —— を達成することに貢献できるのです。

シッダ・ヨーギたちがこの新しい方向性を理解する助けとして、「シッダ・ヨーガ・ミッション・ブリーフィング」が作られ、顔を合わせてのミーティング、電話会議、音声によるプレゼンテーション、後にはシッダ・ヨーガの道のウェブサイトを通して、何千人もの人々が受講しました。積極的に手助けを買って出た SYDA ファウンデーションのスタッフや世界中のセーヴァイトたちによって、多くの仕事がなされました。彼らは、SYDA ファウンデーションの目的とシュリー・ムクターナンダ・アーシュラムが行う任務について、世界中のシッダ・ヨーガのサンガムを明快に教育することを助けました。短期間で高い比率のシッダ・ヨーギたちが参加し、シッダ・ヨーガの道を世界中でより身近なものにする手助けのセーヴァーをささげました。SYDA ファウンデーションがこの方針のゴールを達成することができたのは、大勢の献身、専心、生徒であることの自覚があったからです。

方針が施行された後の移行期に、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの人員の「適正規模化」が行われ、アーシュラムの物理的な空間もこの新しい焦点に合わせて再構築されました。

各オフィスはアーシュラムの一つの建物であるアートマ・ニディ —— この名前の意味は「大いなる自己の宝」—— に集約されました。そして、SYDA ファウンデーションのリーダーたちは一致団結して、スタッフが長期間セーヴァーをささげながら、シッダ・ヨーガの修行を彼らのスケジュールに組み込む方法を身に付ける手助けをしました。例えば、リーダーたちはスタッフの一人一人が毎週、アーシュラムの日課のうち、一定数のナーマ・サンキールタナとスワーデーヤに参加することに努力して取り組む仕組みを作りました。

この頃に、シュリー・ムクターナンダ・アーシュラムの経営陣は、バガヴァーン・ニッテャーナンダの小さなムールティをアートマ・ニディに据えることを決めたのです。これによって、この建物の中でセーヴァーをささげるセーヴァイトたちは毎日バデ・バーバのダルシヤンを持つことができ、それによってアーシュラムで奉仕する目的に再びつながることができるようになります。バデ・バーバの教えは、「心はすべての聖地の中心である。そこへ行き、歩き回りなさい」です。本当にそうではありませんか。あなたがバデ・バーバのダルシヤンを持つ時、あなたは神の神殿に行かないわけにはいかないのですから。

新しい方針が始まり、規模の適正化が行われてから7年後の 2011 年まで話を進めます。グルマーイは、2011 年はバデ・バーバの黄金のブンニャティティの年だと知り、世界中のシッダ・ヨーガ・サンガムを含めてこの 50 周年の記念日を祝う一番良い方法は何かと尋ねました。SYDA ファウンデーションのリーダーたちはこう答えました。「シッダ・ヨーガの道のウェブサイトが、皆を含めるのに一番の方法です」

この理由のために、グルマーイは SYDA ファウンデーションのセーヴァイトに、1997 年から存在していたシッダ・ヨーガの道のウェブサイトを活活化するように要望しました。私たちは、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトが 2004 年に定められた方針の最初の意図をどれほど成し遂げたかをあなたに話す必要はありません。しかしながら、ある画期的なイベントの話をしてはいけないわけではありません。それは 2013 年に初めて行われたバガヴァーン・ニッテャーナンダのマハー・アヴィシェークのライブのビデオ配信です。

シッダ・ヨーガの道のウェブサイトの再出発と共に、グルマーイは、世界の至る所に住むシッダ・ヨーギたちと新しい探究者たちが、一つのサンガムとして、教えと学びのイベントに参加する場を「シッダ・ヨーガ・ユニバーサルホール」と名付けました。これらのイベントの多く

はシュリー・ニーラーヤから放送されたので、シュリー・ニーラーヤはユニバーサルホールになりました。

ウェブサイトが活性化された7年後の2018年9月に、グルマーイは、ホールの隣の小さな場所にバデ・バーバのムールティを置き続ける代わりに、バデ・バーバの存在をユニバーサルホールに持ってくるように SYDA ファウンデーションのリーダーたちに要望しました。

グルマーイが間もなく予定されている移転についてシュリー・ニーラーヤでの最近のサツツァングで私たちに話した時、多くの人々は喜びと期待を表しました。とはいえ、それは再調整の時期でもありました。誰もが、この変化がどのようなものになるのか、あるいはそれがどのようにまとまるのか、確信があるわけではありませんでした。ご存じの通り、どのような変化でも、それを支持するには少し時間を必要とします。

グルの言葉の影響にあなたは気づき始めるためには、少し時間が必要です。そして、時間がたつにつれ、あなたはその導きのより深い意味を体験し続けます。

ガネーシュ・ウツウサヴァの8日目に当たる2018年9月20日の木曜日に、バガヴァーン・ニッテャーナンダのムールティがシュリー・ニーラーヤの新しいプージャの祭壇に運ばれました。この精巧な祭壇は優雅に湾曲したアーチの中心に位置し、グルマーイの椅子の真正面に当たります。

バデ・バーバがシュリー・ニーラーヤに到着し、プージャの祭壇の上に着座するや否や、優しい「クジャク」の雨が降り始めました。私たちは、この吉兆な瞬間に母なる自然が喜んでいてのを感じました。私たちは、バデ・バーバの黄金色の表情と優雅な一瞥(いちべつ)が空間全体に浸透するのを体験しました。それは本当に驚くべきものでした —— 私たちは、グルマーイの存在により、シッダたちの存在により、そこで行われてきたあらゆるシッダ・ヨーガ

の修行により、シュリー・ニーラーヤの空気はすでに電気のように強烈なものだと思っていました。空気中のすべての分子が、最も優しいシャクティによってさらにもっと充電できるなどと、私たちは少しも理解していなかったのです！ それは私たちに考える材料を与えました。どのように蜂蜜は蜂蜜よりも甘いということが可能なのでしょうか。

これからあなたをさらに遠くへ時間をさかのぼる旅にお連れしましょう。バガヴァーン・ニッテャーナダのムールティがシッダ・ヨーガ・アーシュラムに初めて据えられたのは、47年前の1971年のことでした。

1950年代以降ずっと、最初は何百人が、やがて何千人もの人々が、世界のあらゆる場所からグルデーヴ・シッダ・ピートゥを訪れたものでした。バーバ・ムクターナダは中庭に座って、信奉者たちが質問をし、あらゆる種類のことを願い、彼らのサーダナーについて話すのに応じながら、何時間も何時間もダルシャンや教えを与えました。

バーバ・ムクターナダとの果てしのない一つのサツァングが何日も何年も続いたと私たちが言ったとしても、それは誇張ではありません。

それは、1960年代後半の、それらのバーバとの会話の一つだったに違いありません。それらの訪問者の何人かが、バーバの彼のグルへの愛を認め、程近いガネーシュプリー村にあるバデ・バーバのサマーディ・シュラインに、彼のムールティを据えるという考えを持ち出しました。バーバはその考えに同意したに違いなく、なぜなら、その後バーバは自らムールティの創造を監督したのです。数日おきにバーバは彫刻家が住むムンバイまで行き、ムールティが形作られる様子をチェックしました。進行中に彫刻家はバーバに、バデ・バーバの表情が忠実に再現されているかを尋ね、バーバは時に自ら改良を加えました。彫刻家が作業を完了させると、その彫像はグルデーヴ・シッダ・ピートゥに運ばれ、バーバはそこで据え付ける前の最後の仕上げを加えました。

ムールティがガネーシュプリー村に運ばれる直前、この物語は予想もしない方向に向かいました。バガヴァーン・ニッテャーナダのサマーディ・シュラインの理事たちが、バデ・バーバのムールティは違う姿勢で座っているものにしたいとバーバに伝えたのです。そして彼らは自分たちの考えを推し進め、それはこのムールティはサマーディ・シュラインに設置しないという意味を意味しました。当初、理事たちは快く従っていたので、このことは誰にとっても驚きでした。しかしながら、この変更がバーバの熱意をくじくことはありませんでした。グルデーヴ・シッダ・ピートウで育った人々の一人は、バーバがこう言ったのを覚えています。「バデ・バーバはこのアーシュラムで私たちと共にいたいのだ！ そう、彼に temple を建てよう」

長い物語を要約すると、それがまさに起こったことです！ グルデーヴ・シッダ・ピートウの temple にバデ・バーバを据える式典が、1971年5月10日に行われました。この歴史的な時に、バーバは言いました。「もしあなたが深い敬愛と共にこのムールティのダルシヤンをするなら、もしその神秘の中心に身を投じ、バデ・バーバの目の中の燃え盛る愛に、彼の姿の光輝に答えるなら、あなたは彼の完全な栄光の中にニッテャーナダを実際に見るだろうことを、私はすべての力とすべての威信を懸けて宣言する」。ニッテャーナダ —— 永遠の至福。

その場にいた多くの人は、アーシュラムの空気に与えたその影響は手に取るようだったと、その式典の後に話しました。大気はさらなるシャクティで脈動しているようで、探究への熱望はさらに強くなったようでした。ほとんどの信奉者が、アーシュラムの中のバガヴァーン・ニッテャーナダの存在と、彼の生前よりも大きいサイズのムールティで、二人のバーバがいるように感じたのです！ さらなるシャクティ。

現在に戻りましょう。ここ、シュリー・ムクターナダ・アーシュラムで、2018年9月20日に行われたバデ・バーバをシュリー・ニーラーヤに迎えるサツァングは、あの初めての落成式を思い

出させるものでした。私たちスタッフと訪問セーヴァイト全員が完全な静けさの中でバデ・バーバの前に立ち、彼の存在からその空間中に発せられる恩恵の黄金の光を吸収していました。

少しすると、私たちはニディ・チョークからさざ波のように伝わるグルマーイの笑い声に心が躍り、没頭から目覚めました！

グルマーイがシュリー・ニーラーヤに入ったのは、午前 10 時 45 分でした。彼女はバデ・バーバの新しいプージャーの祭壇に歩み寄り、プラナムをささげました。私たちは少しの間、敬意を込めて手を合わせました。そして、グルマーイがプージャーの祭壇の脇のテーブルの上に置かれた崇拝のための品々に目を向けるのを私たちは見ていました。それらはグルマーイがバデ・バーバにこれからささげるものでした。それらの品々は、2006 年以来シュリー・ムクターナダー・アーシュラムにあるバデ・バーバの2体のムールティの世話をしてきたスワーム・アサンガーナンダの監督の下、セーヴァイトたちによって、愛情を込めて準備されたのです。

取りそろえられたささげものは、何と素晴らしいものだったでしょう —— 鮮やかなクムクム、ターメリック、そしてビャクダンの練り香、繊細な米粒、香油、柔らかな香りを放つバラやかぐわしいモグラの花輪、おいしそうな果物が盛られたたくさんのボウル、そして甘いココナツ。グルマーイはこれらをささげ始め、そして私たちは、愛と優しさを呼び起こすジンジョーティー・ラーガの「オーム・ナモー・バガヴァター・ニッテヤーナンダーヤ」をチャンティングしました。シッダ・ヨーガのすべての正式なチャンティングの中でも、特に 1960 年代、70 年代、80 年代からシッダ・ヨーガの道を歩んできたシッダ・ヨーギの皆にとっては、これこそグルの恩恵と祝福を受け取る体験を包含するチャンティングです。

グルマーイはバデ・バーバへプージャーをささげた後、シッダ・ヨーガの系譜と伝統に敬意を表して、バーバ・ムクターナダ、そしてあらゆるシッダの肖像画にもささげものをしました。私たちは朝と夕方のアーラティーの始まりの数節を歌い、それからユニバーサルホール

中に新たな座を得たニッテャーナダに敬意を表して「ニッテャーナダ・アーラティー」を歌いました。バガヴァーン・ニッテャーナダへのプージャの締めくくりとして、響き渡る声で「サッドグルナートウ・マハーラージ・キー・ジェイ！」を3回繰り返しました。

そして、司会のデニース・トーマスの声掛けで、私たちはグルマーイとのサツァングのためにホールを整え直しました。それは、途切れのない崇拜の一つの流れのように感じられました。いつまでも続くプージャのきらめきの中、畏敬と驚嘆の念で互いに目を合わせながら、私たちは椅子を動かし、楽器を準備し、マイクを設置しました。

ホールを整え直している間、グルマーイは、ガラスにバデ・バーバの肖像画が刻まれた窓の方に歩いて行きました。シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで、バーバ・ムクターナダの美しい肖像画が刻まれたもう一つの窓と共に、皆さんも見たことがあるかもしれません。それらの窓はグルマーイの椅子の両側にあります。

グルマーイは、バデ・バーバの窓の真下に、黄金色のカンナの花が咲いているのに気づきました。「バデ・バーバのためだけに花が育っているみたいですね」と、彼女は言いました。そして、グルマーイは、バデ・バーバのプージャの祭壇の真向かいにあるホールの前方の彼女の椅子に座りました。さあ、これからシュリー・ニーラーヤで初めての、バガヴァーン・ニッテャーナダのムールティの前でのグルマーイとのサツァングが行われようとしていました。

グルマーイは、「私たちは 360 度ぐるとシッダたちに囲まれています！」と言いました。

私たちは皆すぐに、その体験を受け止めるためにホールを見回しました。後に、参加者の何人かがこの瞬間がどのようなものであったかを話しました。

「畏敬の念を感じました。本当に私たちの周りにはシッダたちのダルシヤンを体験していると感じました。彼らの守護とホールの中の彼らの存在に、全く新しいレベルで気づきました」

「ホールは窓も壁もないかのようでした。それは無限になったのです。私は山頂に座って、光に囲まれていると感じました」

別の参加者は、内側で 360 度の広がりを経験したと話しました。「それは私に、この気づきと共に世界を熟考するよう促したのです」と、彼女は言いました。「私の心の周りに築かれた壁が取り払われました。今では、このより大きな 360 度の気づきをもって世界に住むことを想像できます」

ユニバーサルホールの全景を描いて見ましょう。一緒に、この空間にあるすべての神聖な場所へのヤートラを始めてみましょう。

シュリー・ニーラーヤは広がりのある楕円(だえん)形のホールです。日中は、大きな天窗と大きな窓から光が注ぎ、窓からはその向こうにある庭を見ることができます。

グルマーイの椅子はホールの南側にあります。グルマーイは、数え切れないほどのサツツァングをそこで行ってきました —— 教えを授け、チャンティングをし、私たちに瞑想に導き、ダルシヤンを与えてきました。グルのシャクティの座として、私たちはこのホールにあるグルマーイの椅子に毎日拝礼します。

グルマーイの椅子の両側には二つの大きな窓があり、それぞれにバーバ・ムクターナンダとバデ・バーバの肖像画が刻まれています。そしてグルマーイの椅子の上には、バーバ・ムクターナンダの素晴らしいセピア色の肖像画が掲げられています。

グルマーイの椅子から時計回りに西の壁に沿って動くと、バーバ・ムクターナンダが深く尊敬した7人のシッダたち —— ランガヴァドウトウ、シルディのサイ・バーバ、アッカルコートウ・スワーミ、ランチョッド・バプ、ハリ・ギリ・バーバ、ジプルアンナ、シッダールダ・スワーミ —— の肖像画が見られます。

北側の壁には、シャクティできらめく三つのプージャーの祭壇があります。最初のプージャーの祭壇はバーバ・ムクターナンダにささげられています。次の中央にあるのは、バデ・バーバの新しい住まいです。そして壁の右側にあるのは、マハーラクシュミーの祭壇です。

ホールを回っていくとシュリー・ニーラーヤの入り口が見え、そこにはバーバとバデ・バーバの肖像画があります。そしてその東側の壁には、「シュリー・グル・ギター」の全文が彫られた真ちゅうの美しいパネルがあります。

まさしく、恩恵の 360 度です！

では、サツァングに戻りましょう。この偉大な日を祝って、スワーミ・イーシュワラーナンダがあらかじめ準備していた長い体験談を話しました。スワーミ・ジがその話の中で伝えたバデ・バーバの奇跡についての二つの物語を、私たちは夢中になって聞き入りました。それは、私たちが大好きなシッダ・ヨーガのコースの一つ —— 「奇跡のコース」 —— を思い起こさせました。このコースは、1997年7月に初めて行われ、そしてバデ・バーバのプンニャティティと彼の恩恵がこの世界にもたらした祝福を祝って、何年もの間夏になると繰り返し行われていました。バデ・バーバの生涯と教えについての、そして彼がいる場所で起こった奇跡についての多くの驚くべき話がこのコースの中で語られました。

これらの話は、グルマーイの要請で、セーヴァイトのチームがインド中を旅して、生前のバデ・バーバを知っていて直接これらの奇跡を体験した人々や、両親や年長の家族、さらには隣人から話を聞いていた人々に会って聞き取り、集めたものです。

スワーム・イーシュワラーナンダが語った時、これらのバデ・バーバの物語が決して古びることはないとは私たちは気づかされました。そしてこれらの物語は決して聞き飽きることはありません。奇跡の物語は、語られるたびに、新たなラサが染み込みます。そして、それを別の人が語ると、まるで初めて聞いたかのように感じます。強調したいのは、これらバデ・バーバの奇跡についての物語は 100 年前のことであるにもかかわらず、永遠に新鮮であるということです。ジェイ・バデ・バーバ！

スワーム・イーシュワラーナンダが話した後、スワーム・アカンダーナンダが、グルマーイが 2011 年のバデ・バーバの黄金のプンチャティティを祝って書いた詩、「形のない神殿」を朗読しました。この荘厳な詩はダーラナーのように、私たちに深い瞑想へと導きました。

私たちの意識の周辺のどこかで、チャイムと鐘の優しい音が聞こえました。時間と空間が再び形を取りました。私たちはゆっくりと目を開けて、ハーモニウムが奏でる「シュリー・アヴァドゥータ・ストートラム」—— バガヴァーン・ニッテャーナンダをたたえ、彼の完全な自由の境地を描写した賛歌 —— の前奏を聞きました。

シッダ・ヨーガの道で、私たちは何と素晴らしい伝統を持っているでしょうか —— 私たちはチャンティングし、そしてさらにチャンティングします。私たちはプージャーをし、そしてさらにプージャーをします。私たちはアーラティーを行い、そしてさらにアーラティーを行います。このサツァングも全く同じでした。

私たちは、立ち上がってグルマーイに「ジョータ・セー・ジョータ・ジャガーオー」を歌い、この上なく幸せでした。

サツァングが終わると私たちが思ったちょうどその時、グルマーイは少しの間シッダ・ヨーガのミュージシャンたちに話し掛けました。彼らは、「ジョータ・セー・ジョータ・ジャガーオー」の前奏を少し遅れて演奏したのです。グルマーイは言いました。「ただ生きているふりをするのはやめなさい。一つ一つの瞬間に十分な注意が払われるようにしなさい。一つ一つの瞬間は生きています。このようなお祝いの間、シャクティの波が打ち寄せます。ですから、その一つ一つの波に乗ることを学ぶ必要があります」。グルマーイは話しながら、大きな海の波が高まるとは静まる身振りをしました。それはとても美しい姿でした。私たちはグルマーイの言葉と魅力的な身振りにくぎ付けになりました。

突然グルマーイは、「アーナンダートウセー・ドーヒー・アーナンダ・タランガ」をアカペラで歌い始めました。

あふれんばかりの至福の中、波が次々と押し寄せてくる

この波もまた、至福以外のなにものでもない

なぜなら至福とは、この至福を感じる体の粒子一つ一つの本質だから

私たちは皆加わり、そしてとても素早く、シッダ・ヨーガの経験豊かなミュージシャンであるシャンバヴィ・クリスチャンが波に乗って行動に移しました。彼女はハーモニウムで引き継いで、その旋律を弾き始めました。

私たちが皆でグルマーイと共に繰り返しの部分を歌っている中、グルマーイは椅子から立つと、皆に歌い続けるよう促しながら、通路を歩いて行きました。グルマーイはバデ・バーバのプージャーの祭壇に近づきました。

プラナムをささげた後、グルマーイはミュージシャンたちを振り返り、この間人々はずっと繰り返しの部分だけを歌っていたことに気づきました。そこでグルマーイは歩いて戻り、最初の節を歌い始めました。シャンバヴィと指揮者のウォーカー・ジョーンズは、すぐさまそれに対応しました。私たちが続いて詩節の波に乗ると、グルマーイはとても喜んでいるように見えました。

私たちはこの旋律豊かなアバンガを歌い続け、グルマーイは、シュリー・ニーラーヤの入り口にあるマハーラクシュミーのプージャーの祭壇に向かって歩きました。グルマーイは、至上の愛、美、そして繁栄の女神に、バラの花びらを滝のようにささげました。

では、過去に戻ってもう一つの旅に皆さんをお連れしましょう。このマハーラクシュミーの絵は、グルマーイの依頼で1986年11月から1987年2月にかけてグルデーヴ・シッダ・ピートゥで描かれました。その頃、多くのシッダ・ヨーギたちが、精神の道を歩むことと、お金を稼いで世俗の役割を果たすことをどう調和させたらよいかに不安を感じていました。

グルマーイは、サーダナーを追求することと豊かな人生を送ることは対立していないと教えています。マハーラクシュミーは人生のあらゆる領域に富を与えます。彼女は物質的豊かさと精神的英知を共に授けます。ですから、グルマーイはこの絵を描くことと、マハーラクシュミーのコースを行うことを要請しました。このコースは、絵が完成した1987年の夏に初めて開かれました。参加者はこの女神の多くの形や側面について学び、マントラを復唱し、賛歌を歌い、彼女の栄光をチャンティングすることで、自分自身の内側にあるマハーラクシュミーのシャクティを呼び起こしました。

毎日、そのアーティスト——オーストラリア出身の熟達した肖像画家——が特に新しい絵の特徴となる創作に着手していた時期、彼女はグルマーイが毎日ダルシャンをしていた中庭にやって来たものでした。彼女は、グルマーイの思い描いているマハーラクシュミーの姿を完全

に実現できているか確実にするために、彼女が絵を描いている間に彼女を訪問してくれるように、グルマーイに謙虚に請いました。このような訳で、グルマーイはこの絵に細部にまで関わっていました。グルマーイはアーティストに指示を与え、彼女自身が絵の一部に手を入れることさえしました。

さらに、アーティストは絵の中にグルマーイを反映させたいと望みました。アーティストが何度も依頼したので、グルマーイは自身の手をモデルにマハーラクシュミーの手を描くことを許可しました。私たちはシャクティ・プンジャ・アーカイブの中に、1987年にグルデーヴ・シッダ・ピートウにいてその絵が完成した時にそれを見た一人のシッダ・ヨーギの記録を見つけました。この人はこのように語っています。「マハーラクシュミーの美しい右の手のひらから金貨が降り注ぐのを初めて見た時、私は新発見の広がりを経験しました。私は良い人生を送ると同時にサーダナーを追求することもできるのだと分かりました」

そのアーティストはシャクティ・プンジャの自分の報告の中で、グルデーヴ・シッダ・ピートウで毎夕、グルマーイが散歩に出掛ける時、窓からグルマーイを観察しては限りないインスピレーションを得たものだと記録しています。女神が左手に持っているバラは、グルマーイがその同じバラを持っている姿に触発されたものです。そして、マハーラクシュミーのまばゆい冠の形は、その当時グルマーイがかぶっていた薄桃色の帽子を基にしています。このデーヴィーの非常に美しい描写とその前にあるプージャの祭壇は、この神聖な空間がまずシュリー・ムクターナダ・アーシュラムの主なサツァング・ホールとなり、その後シッダ・ヨーガ・ユニバーサルホールとなって以来ずっと、シュリー・ニーラーヤを美しく飾ってきました。

どのようにグルマーイが、シュリー・ニーラーヤ、ユニバーサルホールで、私たちは今シッダたちの存在に360度囲まれていると話したかを覚えていますか。バガヴァーン・ニッチャナダのムールティの移動によって、シュリー・ニーラーヤにおけるバデ・バーバの存在によって、私たちは真に恩恵に囲まれています。私たちのサーダナーはグルの教えによって深まります。

私たちの人生は彼らの恩恵と祝福に包まれています。ユニバーサルホールはマンダラ、すなわちグルのシャクティを中心とした神聖なエネルギーの輪となりました。

私たちはあなたが、この物語を通して、私たちの思い出をたどる旅から何か新しいことを学び、この極めて重大な日のラサを味わうことができたことを願います。

バガヴァーン・ニッテャーナダの最も優しいシャクティが、あなたの覚醒、夢、深い睡眠の状態すべてを通して流れ、あなたが永遠の至福に浸ることができますように。

あらゆる場所にいる探究者がグルのディークシャーを通してクンダリニー・シャクティの目覚めを受け取るというバーバ・ムクターナダのサンカルパが完全に実現し、世界が自由の至福を知る者でいっぱいになりますように。

グルマーイ・チッドヴィラーサーナダの恩恵と教えが、世界中の探究者に大いなる意識の戯れの至福の体験を与えますように。

